

VOL. 27
2021.秋号

NANAIRO

なないろ



相談支援からのお知らせ

令和3年9月1日から障がい児相談支援事業を開始しました。それに伴い、事業所名称が「**相談支援事業所 虹の家**」となりました。これまで同様、18歳以上の計画相談も実施しております。

相談支援員として

相談員として働き始め、約4年半の月日が経ちました。今、振り返ると、相談員として働き始めた時は制度の事もさほど分からず、ただ目の前の人の相談に乗る事や計画を作成する事で精一杯でした。「一人一人のニーズに対応する事」「困った事をそのままにしない事」「緊急時にしっかり対応する事」などをモットーとし、相談支援員として働いてきました。ひとりひとりの利用者によって障がい特性も家族背景も異なっており、様々な利用者さんとの相談経験によって、相談員として成長させて頂きました。

4年半の経験の中で、医療的ケアの問題でサービスを利用できないケース、制度の狭間によりサービスを利用できないケース、現行のサービスだけでは解決できない複雑なケースの相談支援を行う事も多くなっていました。現在の障がい福祉制度の限界を感じる部分も多々増えてきました。「どこに相談して良いか分からない。」「どうせどうにもならないでしょ」など諦めているご本人・ご家族の相談や紹介が多く、相談支援の質の向上が求められていると感じています。ひとりに基幹相談支援センター、児童相談所、計画相談など複数の相談支援に関わるケースもあり相談体制の設備が求められている気がしています。

この度、社会福祉法人あきの会では障がい者だけではなく、障がい児の相談支援事業も令和3年9月1日から開始することとなりました。障がい児は生活や家族環境の変化も多く、障がいの程度も常に変化していく事から様々な知識や経験が求められると思います。一人一人、経験を重ねながら、幅広く支援ができる相談員を目指し、これからも頑張りたいと思います。



担当者: 國光 力

在宅支援部課長(作業療法士)虹の家のスターティングスタッフです。

今年、一児のパパとなり公私ともに充実しています。

10月14日(木) 七五三お祝い

入所の、さくらちゃんときょうちゃんの七五三(3歳)のお祝い会を開催

看護師の蒲池さんが子供さんの着物を持参していただき、二人ともとても可愛く着付けが出来ました。

とみおさんが禰宜に扮し、みんなで二人のこれからの健やかな成長を祈りました。さくらちゃんは経管栄養で食べられませんが、きょうちゃんは七五三お祝いの特別メニューが提供されました。

七五三フォトブックを作成してプレゼントしました。



リハビリテーションレポート 第3回

車椅子・補装具の取り組み

虹の家では、車いす・補装具を作成する場合、ブレースカンファを開催し、多職種で検討しています。その一部をご紹介します。

電動車いすの作成

服部 剛典様 40代 脳性麻痺・脊椎側弯

服部さんは、側弯の影響で右側腹部に褥瘡が発生しやすい状況にありました。車いすに乗っている時間が長いのですが、常に右側方に倒れこみ左の後方に背中が曲がり、胸郭が回旋した状態で、安定した座位をとることが出来ておらず、車いすの検討をしていました。今回、ご本人の「自分で出来ることは自分でしたい」という気持ちに寄り添い、電動車いすを作成することにしました。

電動リクライニングをつけることで、本人のタイミングでリクライニングを行い右側腹部の除圧を行う効果も期待されます。

電動車いすに試乗した際、側弯と麻痺の影響で体幹が安定せず、電動車いすのコントローラー操作が思うようにできず、周囲のぶつかり危険な状態でした。そこで、安定した座位がとるためにシーティングを評価検討しました。

また、上肢の機能に合わせてコントローラーも工夫した結果、安定した車いす操作が可能となりました。



短下肢装具の作成

平野 晴美様 40代 脳性麻痺・てんかん

平野さんは介助者が手を引けば歩行することが出来ます。しかし、下肢の麻痺の影響で、足部が外反扁平・底屈の状態にあり、反張膝で重心を後方に置いたまま歩行しており、不安定な状態でした。

足部の底屈の補助を行うためにオルトップシューズを検討しました。

さらに、外反にはオルトップに内側にアーチを作ることによって、歩行が安定し介助量を軽減することが出来ました。



座位保持装置の作成

山下 真理子様 30代 18トリソミー

右股関節の脱臼・変形性股関節症により、股関節を屈曲すると痛みが生じるため、安定した座位が取れない状況にありました。シーティングの評価を行ったところ、痛みのためお尻を滑らせて、顎が上がったきつそうな座位をとっていました。体重をうまく支えるための、座面やバックサポートを検討し、新規の座位保持装置を作成することになりました。

また、ティルト機能をつけ、股関節の痛みが生じない姿勢を保持した状態で体を起こして、日中活動に参加できるように工夫も施しました。

担当者
迫(理学療法士)

今年10年目のPTです。柳川療育センターで6年、虹の家で4年目を迎えました。虹の家では1~3年目は主に外来を担当し、今年度より入所者さんの医療的ケア度が高い利用者様と短期入所利用されている外来利用者様を中心に紹介させて頂いております。

昨年8月に我が子が誕生しました。その後、3か月間育児休業を頂き、育児に専念させて頂きました。職場の皆様にはご迷惑おかけしましたが、貴重な経験をさせて頂きました。

現在、仕事の両立に奮闘しております。息子は最近つかまり立ちを初めてもうすぐ歩き出す時期かと思えます。育児を通して子供の成長する喜び、子供が体調を崩した時の親の気持ち、日々当たり前の家事の大変さ等を経験し、ご家族皆様の気持ちが少しですが共感出来てきたように思えます。この経験を活かし、ご家族に寄り添った支援に努めたいと思っております。

第32回重症心身障害療育学会学術集会

令和3年10月7日(木)～10月13日(水)オンラインで開催されました。虹の家から2演題の発表を行いました。

演題名

心と行動に寄り添ったチームの周囲への影響

発表者

萩原 琢(児童指導員)

内容

行動障害のある児童の理解に悩むスタッフと情報を共有し、本人の落ち着く環境整備の土台作りと、スタッフの行動障害への理解を促すことができた事例報告。

演題名

誤嚥性肺炎により転院を繰り返す胃瘻造設重症児(者)に対する嚥下訓練によって転院がなくなった症例

発表者

岡本 慎平(理学療法士)

内容

胃瘻からの栄養摂取により口腔内乾燥を起こし細菌増殖、それを含んだ唾液を誤嚥することで誤嚥性肺炎を繰り返すのではないかと考え、嚥下訓練を実施し、肺炎が減少した症例報告。

その他

今年は、様々な研修がオンラインで開催され、虹の家でも積極的に参加し、サービスの質の向上に力を入れています。

令和3年
9月9日

令和3年度
全国重症心身障害児者施設職員研修会
「看護師コース」

参加者
看護師 坪井美里

令和3年
10月13日

令和3年度
全国重症心身障害児者施設職員研修会
「栄養士・調理師コース」

参加者
管理栄養士 中村千早

令和3年
10月28日

令和3年度
全国社会就労センター総合研究大会

参加者
作業療法士 諸星和希 佐藤由貴

令和3年7月30日 西田裕美子さん(59歳)が永眠されました。

西田さんは、虹の家の第一号の入所者で、開設時の平成26年10月1日に虹の家に来られました。

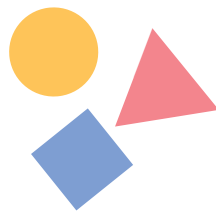
ご両親も高齢であり、食べ物の経口摂取が困難になり胃瘻となったことで、やむなく虹の家の入所を決められました。

来られた当時は、車いすに座り、大好きな山口百恵の曲を流すと笑顔になったり、涙を流したりされていましたが、だんだんと全身の痙攣が激しくなるとともに、刺激への反応も弱くなっていきました。全身のピクツキを緩和して楽に過ごしてほしいと、やわらかい布で体を覆うなど様々な取り組みを行いました。お母様は、ダウン症で徐々に脳の機能が低下するため、延命処置は行わず虹の家での看取りを希望されていました。幸い、ご自宅が虹の家に近く、毎日のように面会に来られていました。お母様は、来られた時は必ず愛情のこもったスキンケアを行われていました。スタッフは「ゆみちゃん」という愛称で呼び親しみをもって接し、虹の家の色々な行事にお母さんと参加されました。「ゆみちゃん」は頑張り屋さんで、呼吸不全により危ない状態を何度も乗り越えてきました。

しかし、令和2年2月新型コロナウイルスの影響で、面会制限を行わざるを得なくなりました。長引く新型コロナウイルスの影響があるなか、看取りをするにあたり、特別に西田さんのお母様を病棟に入れて最後を迎えるよう検討していた矢先、西田さんが原因不明の貧血状態となりました。虹の家では輸血ができず、やむなく別の医療機関で輸血を受ける事になり、その時のPCR検査にて結核(特に不顕性なので問題はなかったのですが)が判明し、別の病院に転院となりました。そのまま、虹の家に帰ってこられることはありませんでした。お母様も「虹の家で看取りたい」と希望を出されていましたが、その思いは叶いませんでした。訃報を受け、スタッフ一同「虹の家で看取りたかった」、切ない思いで胸がいっぱいになりました。もっと積極的に転院先に働きかけて、虹の家に帰していただくよう試みるべきだったのではと・・・悔しいけれど時は戻りません。

「看取り」の取り組みを行う事を西田さんにお約束するとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。





社会福祉法人
あきの会

<http://akinokai.jp/>

虹の家

障がい児者医療生活支援ホーム

〒812-0044 福岡市博多区千代一丁目15番10号

TEL/092-651-7325 FAX/092-651-2420

みかんの樹

MIKAN 森のかまど やの亭

〒811-0101 福岡県粕屋郡新宮町原上1223-4

TEL/092-962-0585 FAX/092-962-0527



Instagram